

## 令和3年度 古賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証会議録（要点筆記）

日時 令和3年12月15日（水）15：00～16：20

場所 市役所第2庁舎4階402会議室

出席者：松野尾委員長、宮原委員、三島委員（欠席者：藤川委員、佐竹委員）

事務局：古賀市 総務部 経営戦略課 大浦課長、久保係長、栢主事

傍聴者：なし

### 1. 課長あいさつ

経営戦略課長からあいさつ

### 2. 委嘱書交付（新規委嘱委員）

株式会社福岡銀行 古賀支店長 佐竹英仁委員

### 3. 会議及び会議録の取扱いについて

#### ●事務局

本会議は、公開の対象であり、非公開とする特段の事由もないことから、公開としている。会議録については、後日メール又は郵送でご確認をお願いする。

### 4. 第2期古賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

#### ●事務局

第2期古賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略について説明

### 5. 議題

#### ・基本目標1 しごとの創生

#### ●事務局

基本目標1の取組内容について概要の説明

#### ○三島委員

新規創業支援数が増えているとのことだが、事業の廃業や事業承継等マイナスの状況をご教示いただきたい。また、市として何らかの支援しているのか。

●事務局

廃業等は数値として把握することが難しくできていない。新規創業だけでなく、事業承継、事業拡大等については商工会と連携し補助金等で支援していく。

○三島委員

コスモス館に納品する農家が高齢化により減っていると聞かすが、新規就農される方は多いのか。

●事務局

宗像市や福津市といった大きな規模で農地整備等実施している自治体と比べ、古賀市は農地が小さい。小さい分、新規就農者に対する支援はすでに農業に従事している方に支えてもらっている。また、県の普及指導センター、農協と農業者を支援する会議を設置し、経営計画等のアドバイスをできる体制が整った。引き続き新規就農者をはじめ、農業を担っていく方が増えていくように支援を続けていく。

○宮原委員

コスモス館の出荷量が減っているとのことだが、農業 DX の推進等、最新の技術を使って実施する等の検討をされたい。

○松野尾委員長

ピエトロの新工場が立地予定とのことだが、市と連携する事業も想定しているのか。

●事務局

古賀市には食品加工団地の工場の直売所やいちご狩りといった体験に価値を見出すコト消費がいくつかある。コト消費をつなぐ観点から単純に工場を立地するのではなく、何らかの体験ができる場になる等、賑わいを生み出すような工場立地の要望をお伝えしている。まちづくりにとって良い方向に作用できるように連携していきたい。また、ピエトロと立地に関する協定を締結している。工場立地がスムーズに進むように市として手続きを後押しする。

・基本目標 2 ひとの流れの創生

●事務局

基本目標 2 の取組内容について概要の説明

○宮原委員

ホームページ訪問数は新型コロナウイルス感染症の関係で増加している可能性もある。個別のページを見て、弱いところを強化する等検討いただきたい。県はLINEのセグメント配信を開始している。移住・定住の促進にも効果的だと考える。

○三島委員

ホームページが以前と比べ、良くなった印象。ホームページの効果があつて移住者が増えているのか、それとも他県でPRを実施している等その他の要因によるものか。

●事務局

移住について他県でPR等をしているわけではないが、子育て支援や教育など市の強みを分かりやすく説明できるページが完成したため、問合せ時に案内しやすくなった。

○松野尾委員長

空き家バンクについて、掲載数、閲覧数がわかればご教示いただきたい。天草市の担当者からバラエティーにとんだ物件を確保しなければ閲覧されないと伺ったことがある。

●事務局

現状、空き家バンクは2件しか掲載していない。行政が実施する空き家バンクの目的は、一般の不動産市場に立地が悪い等で流通しないような物件をカバーして新たなニーズを広げていくことである。古賀市では空き家問題がそこまで深刻ではないため、相続対策等の啓発が中心であるが、今後顕在化してくる問題である。古賀市はニーズがあるため、不動産業者も空き家バンクに登録するより、営業し新たに分譲等で家を建てた方が利益もでるため、空き家が残ることがあまりない。転入増加にもつながっている。

○松野尾委員長

不動産業との兼ね合いもあるとは思いますが、他の自治体では古民家に特化する等、流通のブランドの土俵にのらないものを扱っている事例もある。空き家バンクで評価をするのではなく、他の評価の視点を検討されても良いのかもしれない。

### ・基本目標3 ひとの支援の創生（結婚・出産・子育て・教育）

●事務局

基本目標3の取組内容について概要の説明

○宮原委員

保育所は面積と人員の問題があるため、年間を通して待機児童0は難しい。県では8/2から「ほいく福岡」という取組をスタート。保育士資格を持っているが働いていない人へのアプローチ、資格を持っていない人には子育て支援員として、配膳、掃除等の就職相談、支援も行っている。

#### ○三島委員

保育士の確保、受皿と人材確保が大事。保育の現場でも負担軽減を目的にICTを導入等、新しいことにも目を向けていただきたい。企業主導型の保育所について、情報発信や支援をして取組が広がっていけば、定住にも繋がり、市の強みが魅力として見えてくると思う。出会い応援団体について、実際に活動されている団体がないような印象。団体数よりどういう活動をして市民の方へ認知され、どういう効果があったのかという点に重きを置き、サポートいただきたい。

#### ●事務局

企業主導型の保育所としてはいくつか挙げられる。認可保育所だけではまかないきれないニーズがあるため、協力しながら実施している。ICTの導入について、民間の保育所でも進んでいる。公立の保育所は鹿部保育所1か所のみであるが、ICTの導入はしており、子育てを支援するために保育士確保、負担軽減を効率的に実施していきたい。

出会い応援団体は、企業として積極的に何らかの支援や取組をしている事業者が少ないのが現状。先日しこむエリアで県主催の婚活イベントが行われ想定の3倍程度の申込があり、ニーズがあることが分かった。結婚や定住にこだわらず、若い世代が知り合いを作る場をつくることでまちづくりにつながる。まずは場づくり、集うという観点で力を入れていきたい。

#### ○松野尾委員長

待機児童について、誕生月との兼ね合いで保育所に預けることができず困っている方が多いと思う。例えば出産の予定や育休の日程等、エントリー制度で要望リクエストを提出いただき、予めニーズの把握をすると対応しやすくなるのではないか。うまい仕組みづくりができれば。

#### ●事務局

2人目、3人目の子どもと比べ、長子について保育所に預ける時期を把握することが難しい。妊婦に係る支援と保育所については同じ課が担当しているため、情報共有しながら実施していきたい。

### ・基本目標4 まちづくり創生

●事務局

基本目標4の取組内容について概要の説明

○宮原委員

路線バスについて、緊急事態宣言の影響があるかと思うが、直近の状況は。ダイヤ改正等しているかと思うが、出来るだけ便数を維持できるよう引き続き取組をお願いする。

●事務局

10～11月は少しずつ乗客が戻ってきた印象。生活スタイルそのものが変わっていることがあり、コロナ禍以前と同程度の利用は難しく、今後も以前と比較し、7～8割程度の利用と考えている。

○松野尾委員長

ヘルス・ステーション活動についてご教示いただきたい。

●事務局

自治会単位で地域の住民が主体となり健康づくりに取り組む活動。健康づくり推進員、食生活改善推進員、介護予防サポーターなど、市民と市が一緒になって健康づくりや介護予防について取り組んでいるが、実際にそれぞれの地域で活動し具体的な健康づくりに取り組むことで効果が高まると考えている。地域の方の理解が必要となることから、推進員やサポーターだけではなく、自治会と協力しながら実施している。自治会によって異なるが、健康測定や血圧測定等を行っており、少しずつ実施している自治会が増えている。

○松野尾委員長

とても良い取組。予防につながると医療費の軽減等にもつながる。また、認知症の早期発見につながるなど、この活動が活発になると良い。

○松野尾委員長

意見が出尽くしたようであるため、以上で総合戦略の検証を終了する。事務局におかれては、委員からいただいたご意見をフィードバックし、総合戦略の進捗に十分に役立てていただきたい。

6. その他

●事務局

ご指摘・ご意見の追加があれば、後日メール、FAX等でご連絡をいただきたい。